

# 雑司が谷旧宣教師館だより

第57号

2016年3月31日

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0031 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 TEL/FAX 03-3985-4081

## 雑司が谷旧宣教師館がリニューアルしました！！

雑司が谷旧宣教師館は、2015年10月から2016年3月末まで、5年に一度の大規模修繕と開館以来はじめてとなる展示リニューアルのために休館させていただいておりました。

今回の修繕では、従来の外壁塗装工事のほか、館内の上げ下げ窓の紐交換、建具の修繕、そして、2011年3月11日の東日本大震災によって亀裂の入った漆喰（しっくい）壁の修繕が行われました。

外壁塗装は、直射日光による紫外線や風雪によってペンキの剥離が進むため、これまでの大規模修繕でも常に行われてきました。本来、住宅の外壁は消耗品のため、痛みがあれば張り替えてしまいます。しかし、雑司が谷旧宣教師館は文化財であるため、できる限り建てられた当初の材、および現状を維持したまま修復し、次世代へ継承していかなければなりません。5年間の風雪に耐えた外壁はペンキが剥離し、それによって表面が凸凹になります。そこで、現状の素材を活かすために、まずは、表面のペンキを削って滑らかにし、新たなペンキを塗りやすくする「けれん」という作業を行います。けれんをかけた外壁は、水洗いされ、新たにペンキが塗られます。

また、今回の休館にあたっては、館内の構造および常設展示の一部をリニューアルいたしました。文化財としての歴史的建造物の保存には、その建造物を使用しながら残していく「動態保存」という方法がとられます。今回のリニューアルでは、1階の空間を広く確保し、当館主催のイベントや講座に幅広く活用できるようにいたしました。これからも、多くの皆様に興味を持っていただける講座やイベントを企画してまいります。装いを新たにした雑司が谷旧宣教師館に、ぜひお立ち寄りください。



「けれん」作業風景。これは2階外壁のけれん作業です。足場から離れ、横倒しになって宙を浮いた状態での作業です。外壁の剥離は、手作業で行われました。



修繕後の旧宣教師館です。



## 大規模修繕の現場から～だれにでもできない、漆喰壁のつくりかた～

2011年3月11日の東日本大震災では、尊い多くの人命が失われました。そして、文化財においても、その被害は甚大でした。雑司が谷旧宣教師館では、この震災による大きな被害はありませんでしたが、漆喰壁に亀裂が入りました。そのため、今回の大規模修繕では、この漆喰壁の修復も行われました。

漆喰壁は、下塗り、中塗り、上塗りの三段階の工程によって壁に塗られます。まず、下塗りの前に、既存の漆喰壁を撤去します。すると、古い漆喰壁の下から木摺（きずり）面が現れます。この隙間に入り込んでいる漆喰も除去し、木摺面だけの状態にします。



現れた木摺面です。



分量のツノマタを煮込んで、糊を作ります。



いよいよ、漆喰づくりです。文化財の修繕では、マッケーレブが建てた当時の漆喰壁に限りなく近いものを再現することが求められます。そのため、漆喰も昔ながらの工法で製造されました。

まず、ツノマタという海藻を大鍋に入れて煮込み、海藻糊を作ります。火の加減にもよりますが、これ



麻と石灰を混ぜて漆喰を作ります。硬さもポイントです。

は数時間かかる作業です。そして、ツノマタがどろどろに煮立ったら網にあげ、上下にゆすって漉（こ）し、糊を作ります。

漉したツノマタを大鍋に戻し、「白毛（シラガ）スサ」という麻と、左官用の消石灰、水を加えて攪拌したら、漆喰の出来上がりです。このツノマタも、捕り手が年々減少している問題もあり、良い素材を入手することが難しくなっているそうです。

こうしてできた漆喰は、まず、木摺の隙間に食い込むように木鏝（きごて）で抑え込んで下塗りを行います。そして、その上に、麻でできた「下げ苧（トンボ）」を菱形になるように一面に打ち付け、伏せ込みます。その後、1週間から10日ほどかけて十分に乾燥収縮させたあと、中塗りを行います。この時の漆喰には、川砂を混ぜたものが使われます。さらに10日ほど乾燥具合を見計らい、漆喰から水分による班が出ないことを確認して、上塗り（仕上げ塗）となります。上塗りに使用する漆喰には、下塗りの時と異なって、「白毛スサ」よりもさらに細かい「晒しスサ」という麻が使われます。漆喰壁の仕上がりは、内部から出る湿気に気を付けなければならないため、天候や気温に大きく左右されるといいます。さらに、固まりやすい漆喰を、上下均等、垂直に素早く塗るには、熟練の職人さんの技術が必要となります。このように素材を見極め、漆喰を作り、そして、ムラなく漆喰壁を仕上げられる左官職人さんは、現在では多くはありません。文化財の修復、および、その保存と活用は、こうしたさまざまな熟練の人々の力が結集して、初めて可能になります。



下塗り作業。下げ苧をつけます。



中塗り作業。砂を入れた漆喰を塗ります。



完成です。カラーでお見せできないのが残念です。

〔漆喰壁については、作業に携った今井啓之氏（株式会社あじま左官工芸）にご教示いただきました。〕



## 館内の紹介

### マッケーレブの生きた日本

1階では、旧宣教師館のかつての主である、J・M・マッケーレブの生活と人生を紹介しています。

マッケーレブは、キリスト教の宣教師として、明治25年(1892)に来日しました。では、マッケーレブが来日した頃の日本は、どのような状況だったのでしょうか。

キリスト教は、江戸時代以降禁教とされてきました。しかし、明治政府が進める文明開化政策のなかで、日本は、諸外国から宗教の寛容、すなわち、キリスト教の受容が求められます。その結果、明治6年には切支丹禁令の高札が撤去され、同22年には大日本帝国憲法において、制限つきながらも、信教の自由が保証されることとなります。宣教師たちは、西洋文化を吸収しようとする日本人たちから、その文化伝達の担い手として期待され、受け入れられたのです。

しかし、一方では、明治19年のノルマントン号事件を契機とした不平等条約改正運動や、教育勅語の発布、天皇を中心とした国民の臣民化政策などが進み、やがてキリスト教への風当たりも強くなっていきます。マッケーレブの来日は、日本においてキリスト教の立場が次第に苦しくなってくる時期と一致しています。江戸幕府崩壊後の東京は、西洋列強に追いつくため急速な都市化を志向するも、各地では地方から労働力として流入した多くの人々が低所得にあえぎ、労働者街を形成していました。宣教師たちは、そうした場所へ積極的に飛び込み、慈善事業などに積極的に取り組みました。

やがて、大正期になると、キリスト教の影響を受けた日本人によって、自由教育やデモクラシーの意識が芽吹きますが、これらは苦難を乗り越えて人知れず伝道してきた、外国人宣教師たちの活動のたまものであったといえるでしょう。

### 秋田雨雀を知っていますか？

2階では、雑司が谷の梟と呼ばれた、秋田雨雀について紹介しています。

近代の雑司が谷地域は、文学者や芸術家、画家などの文化的活動に携わった人々が集住した地域でした。なかでも、豊島区を発祥とする児童文化運動や、自由教育の影響を受けた人々が多く住んでいました。

秋田雨雀もそのひとりです。秋田雨雀は明治16年(1883)、現在の青森県黒石市に生まれました。明治35年に東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学し、明治38年から昭和19年、空襲を避けて故郷黒石へ疎開するまでの約40年間を雑司が谷で過ごします。

雨雀には、いろいろな顔があります。戯曲者であり、文学者であり、思想家であり、そして教育者でもありました。特に子どもたちへの目線は、児童文学者としての雨雀の仕事に強く影響しています。

大正時代は、子どもに対する考え方が転換した時代でもありました。それまで、子どもは「小さな大人」とみなされ、国家のための労働力と考えられていましたが、子どもを子どもという人格として、いわば「子どもらしさ」を育てようという考えかたが生まれたのです。雨雀自身も、娘に一般教育体系から分離した「自由教育」を施していることが『秋田雨雀日記』から窺えます。大正7年(1918)、鈴木三重吉主催の『赤い鳥』が創刊されますが、その1巻6号の「赤い鳥の標榜語」には、「赤い鳥」の運動に賛同せる作家」として、小川未明や鈴木三重吉、芥川龍之介などそうそうたるメンバーとともに、秋田雨雀も名を連ねており、童話を執筆しています。様々な業績を残した雨雀は、存命時、NHK第二教養番組で「雨雀自伝」が放送されるなど、その時代の著名人だったのです。



# 旧宣教師館イベント情報

## オータムコンサートを開催しました

雑司が谷旧宣教師館には、大正10年（1921）前後にピアノ職人の西川安蔵によって製造された、ウェスタンピアノという古いピアノがあります。

2015年10月4日、この約100年前のピアノとフルートによる「オータムコンサート～ウェスタンピアノとフルートの協演～」が行われました。当日は天気にも恵まれ、館内に設けられた約30座席は開演の30分前にはすでに満席となりました。入場できなかった方々は、敷地内の庭で鑑賞。この日の観客動員数は約100人におよび、旧宣教師館は、人で埋め尽くされました。

演目は、ドビュシー「月の光」、プーランク「フルートソナタ」、シューマン「トロイメライ」など。それぞれの曲には、演奏者である宇根美沙恵さん（ピアノ）、前田美保さん（フルート）が説明を交え、観客は約100年前の音色に酔いれました。アンコールでは、東日本大震災の復興を祈って作られた「花は咲く」が演奏され、観客もあわせて合唱し、旧宣教師館はひととき美しい音色に包まれました。



庭から見学する人も。右側は修繕後の同じ壁面です。修繕前と後のちがいがわかりますね。

[以上文責 小山 貴子（学芸研究員）]

## リニューアルオープンイベント

### \*\* スプリング・コンサート \*\*

日 時：2016年5月14日（土）  
14：00～15：30

場 所：雑司が谷旧宣教師館 食堂

演 奏：兒玉千沙子さん（ピアノ）  
櫻井 俊さん（トロンボーン）

曲 目：S. ネスティコ／リフレクティブ・ムード  
山下康介／「瞳～メインテーマ～」など

### \*\* おばあちゃんのおはなし会 \*\*

\*\* あの日の記憶  
—戦争の記憶を語り継ぐ— \*\*

いつものおはなし会のあと、講師の小森香子さんにご自身の戦争体験をお話しいただきます。

日 時：2016年4月9日（土）

場 所：雑司が谷旧宣教師館

14：00～14：25 おばあちゃんのおはなし会  
【小川未明「月夜と眼鏡」／秋田雨雀「鷹の御殿」】

14：30～15：00

「あの日の記憶—戦争の記憶を語り継ぐ—」

\*\*\*いずれも参加費は無料です。直接会場へお越しください!!!\*\*\*